

令和6年度使用小学校教科用図書審議会

第2回会議録

日時：令和5年6月22日（木）

18時00分～20時07分

場所：文京シビックセンター20階

教育委員会室

文京区教育委員会

令和6年度使用小学校教科用図書審議会（第2回）会議録

日時：令和5年6月22日（木）18時00分～20時07分

場所：文京シビックセンター20階 教育委員会室

「出席」	委 員 長	山 田 晴 康
	委 員	森 田 恵 子
	委 員	吉 川 宏 樹
	委 員	土 肥 陽 子
	委 員	吉 岡 淳
	委 員	岩 崎 政 弘
	委 員	小 池 夏 子

「幹部職員」	教育指導課長	赤 津 一 也
--------	--------	---------

「事務局」	統括指導主事	藤 咲 秀 修
	指 導 主 事	室 岡 祐 太

○ **担当** それでは、定刻を過ぎましたので始めさせていただきます。

私のほうから最初に資料の確認をさせていただきます。資料の1枚目、会次第の下に資料の一覧をお示しいたしました。御確認いただきまして、不足がございましたらお声かけください。

本日ですが、資料1が令和6年度使用教科書審議会資料（調査研究委員会まとめ、基礎資料）、資料2が令和6年度使用小学校教科用図書審議会（第1回）の会議録となっております。よろしくお願いいたします。

本日ですが、お一人御欠席の連絡をいただいております。

もう一人、少し遅れて参るということでもあります。よろしくお願いいたします。

それでは、早速、委員長に審議を進めていただきたいと思います。

委員長、よろしくお願いいたします。

○ **委員長** 皆さん、こんばんは。

では、ただいまより「令和6年度小学校教科用図書審議会」、第2回になります。開会いたします。

では、始めに今日の審議の進め方について申し上げます。

まず、本日から、教科用図書について調査研究委員会の報告を基に各発行者の教科用図書を比較、検討の上、文京区立小学校が令和6年度より使用する教科用図書として望ましいものを答申するための審議をしていただく予定であります。

配付資料については、先ほど、事務局より確認のありましたとおりです。審議を進めるに当たっては、調査研究委員会のまとめ、基礎資料を基にしたいと思います。

最後に、記録の情報公開について申し上げます。本審議会の審議内容については、個人名を伏せて、話を要約させていただいたものを記録としてまとめることにいたします。

記録については、8月31日まで時限秘となり、それ以降、情報公開の対象となりますので、御承知おきください。

それでは、審議を始めます前に、副委員長から今日の審議について確認をいたします。よろしくお願いいたします。

○ **副委員長** それでは、本日の審議、よろしくお願いいたします。

今、進め方は委員長よりございましたけれども、限られた時間でございますので、それぞれの教科書のよいところや特徴を御発言いただき、それを答申に生かしていくという考え方で進めていただければと存じます。

その際の視点でございますけれども、前回の資料に実施細目がございましたが、例えば内容としては、教育委員会の教育目標を実現できる内容であるか、文京区の子供たちの実態に合っているかどうか、正確さや分かりやすさ。構成では、配列や系統性、一貫性、読みやすさ、見やすさ、分量、使いやすさというような視点がございましたので、そういった視点でよいところ、あるいは特徴となるところを、それぞれの委員の視点で御発言をいただければと存じます。

皆様に御発言をいただいた内容が答申に反映されますので、ぜひ活発な御意見をお願いできればと思います。

それでは、本日、どうぞよろしくお願いいたします。

○ **委員長** ありがとうございます。

では、今日、こちらの資料1のほう、教科、国語からずっとありますが、行けるところまで行くという形で、御協力のほう、よろしくお願いいたします。

では、まず初めに国語の教科目標と調査研究委員会の報告について、皆さん資料1をお開けいただきますでしょうか。まず最初に、教科・種目名、国語のまとめがそこにございます。1枚でまとめのほうが書かれております。しばらく時間を取りますので、資料のまず国語のまとめ、こちらに目を通していただいて、国語の教科書等がこちらにありますので、そちらにも目を通していただきながら、後で審議のほうに移りたいと思っています。

まず、国語のほう、取りあえず3分程度お時間をこれからそれぞれ取りながら、こちらのほうに目を通していただき、あと教科書のほうですね。皆さん、教科書のほうは国語はありますか。お二人で1つというところになりますか。では、まず国語、資料1のまとめのほうに目を通していただきながら、教科書をめぐりながらということで、取りあえず3分程度お時間を取りたいと思いますので、お願いいたします。もしかしたら同じ学年で見ても、系統性、それぞれの教科書で一つ取って見てということが。

それでは、ちょっと3分過ぎましたけれども、今、東京書籍、教育出版、光村図書ということで御覧いただいているかなと思うのですが、まだ資料確認をしながらという状況かというふうにも思うのですが、審議のほうに移らせていただきます。

今、教科書を実際にめくっていただき、調査研究委員会のまとめ、あと基礎資料のほうを御覧いただいた中で御意見をいただければと思うのですが、事務局のほうに質問があれば、併せてそのときにお願ひしたいというふうに思っています。

調査委員会のまとめは発行者順になっていますけれども、この順番で、この教科書のこういうところがとてもいいのではないかというような御意見でもよろしいですし、ランダムに、この教科書が、この発行者がというような形で御意見を出していただいても構いません。ぜひ御意見のほう、よろしくお願いいたします。

では、いかがでしょうか。委員の皆さん、どうですか。

いかがですか。

○ **委員** 各社で、例えばいわゆる物語文といったものがどんなふうな内容で載っているかなというのを比較してみたりしたのですがけれども、各社とも同じ、共通のものが載っているのですがけれども、特に低学年では、1年生でそれが出てくるのか、2年生で出てくるのかというのが社によって違いがあったのですね。その学年の発達段階を考えたときに、適切に読み取りとか読解ができるのかなというのを考えているかなと思ったのは光村かなと思ったのです。

○ **委員長** 具体的な物語教材の配置みたいのところ。

○ **委員** そうですね、学年の。やはり低学年だと1年生と2年生の学習に対する発達段階の差というのはあると思うので、それは配慮しているのかなというふうに思いました。

○ **委員長** 同じ教材でも、それを低中高の中でそれぞれどのように配置するかという工夫が見られたということですね。

○ **委員** 低学年ですね。

○ **委員長** ほか、いかがでしょうか。

私、5年生を見たのですけれども、5年生を比べて、国語の学習としての進め方というのがどの教科書にも載っていて、そこは分かりやすいな。特に東京書籍なんか、国語の学習の進め方、1冊になっている。だから、常にここの最初の学習の進め方に戻って確認をしやすいのかなということ。デジタルノートの作り方というようなことも、タブレット端末をどう活用していくとか、その辺を含めて、その辺の工夫が1冊にまとめられ、常にそこに戻りというようなことの見やすさでいくと、分かりやすさはあるのかなというふうには、3冊を見ながらですね。

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

○ **委員** 3社はそれぞれ本当によさがあって、どのよさを取るのかなという辺りなのかなというふうに思いながら読みました。

東京書籍は、全体的に1ページ当たりとか1単元当たりとかの情報量がすごく多いですね。1ページにも小さい枠がたくさんちりばめてあったりして、たくさんの情報が入っています。ただ、反面、ここまでのたくさんの情報を扱い切れるのかなという、自分が担任だったらどうかなというのは、ちょっと不安も覚えたりしました。ただ、東京書籍は本当に言語の知識のページの例示だとか、新出漢字の例文とかが大変豊富で、調べ学習をする上ではいいのかなと感じました。

ただ、文京区の子供たちということ言うと、光村なんかは本の選び方の提案がすごく、作家別に選んだらどうかとか、5年生を読んだのですけれども、提案がすごく具体的で面白いと思います。

光村が、全体的に見て、どこを見てそういうふうに思ったのだと証拠を出せと言われたら困るのですが、協働的な学びを重視しているのかなということを感じています。

教育出版は、自分が担任の頃の思い出とかも絡んでなのかもしれないのですが、心に残るようないいお話が多いかなと思います。物語も、説明文も。同じ敬語のページを比べると、一番しっかり子供に分かりやすく扱っているなと感じたのが教育出版でした。

それぞれ三様のよさがあるというふうに感じました。

○ **委員長** ありがとうございます。

教育出版だけ2冊なのですね。上下巻。高学年だけですかね。高学年だけ2冊。

ほか、いかがでしょうか、委員の皆様。

○ **委員** 1冊か2冊かというところ言うと、1冊のほうが単元配列の変更とかがすご

くしやすく、あと、上と下が扱っているのが重なったりもしますよね、たまに。そういうときも2冊持ってくるのかという必要はなくて、扱いやすいのかなと思うのですが、タブレットが加わったりしている昨今だと、重たいという批判を受けてしまったりしないかなという心配があります。

○ **委員長** そうですね。それはありますよね。

表紙なんかも大分、光村はちょっと違うではないですか。教育出版と光村の表紙を比べても、絵の感じとか、光村は、銀河と書いてありますけれども、文京区の子供たちにとって、最初に教科書と出会ったときのこの辺りというのが、ひとつ。いかがですか。いろいろな視点で、この教科書のこういうところは、1冊、2冊というところだけではなくて、中の例えばここの部分がと。

お願いします。

○ **委員** 私は、上にあった1年生から始めてですけれども、東京書籍の教科書を拝見したところ、教科書っぽくないというか、割と言葉の力という用語のセンスとか、冒頭の登場人物が、お名前がきくちあかりちゃんとか、イラストつきでコトハちゃんということが出てきたりするのですけれども、割と現代的なセンス、いろいろな雑誌とかチラシとか、目にする今どきの書面の作り方と近い感じがして、新しい感じがするので、1年生がどうなのかは分からないのですけれども、大人の目線から見ると目が行く感じがしたのですね。目になじみがあるという。それがいいのか悪いのか。悪いというか、どういう作用をするのかとかはちょっと分からないのですけれども、そういうふうにはまず感じて、情報量が多いということも、今どきの子供たち、情報量の多いものを、子供たちの雑誌とかもぎっちり詰まったものを読むのですね。なので、行間を読むとか、イラスト一つから読み解く力とか、そういうのもあると思うので、どういう作用って分からないのですけれども、情報量が多いと割と逆にずっと入る感じはしました。

あともう一つ、東京書籍の後ろのほう、角野栄子さんの顔写真があったのですね、作家の。作家さんの顔写真が入るんだと思ったところが。違ったかな、光村だったかな。見失いました。時間もあれなので、また後で見つけたらお伝えします。

○ **委員長** ありがとうございます。

なじみやすさというのと、あと情報量。ただ、文京区の子供たち、そのたくさんの情報があったときに、その中から何を選ぶか、そこについて力をつけていくというのは一つ大事な視点だと思うので。

では、ほかいかがでしょうか。

○ **委員** 私は5年生で比べていて、「新聞を読もう」というのが、今の時代に新聞を読もうというページがあるのだと思って、各社見てみたらどれにもあったので見比べてみたのですけれども、教育出版さんは図で説明をしていたりして非常に分かりやすく、新聞以外のところも結構図を多用していて、図のこういうところが見出しになっているのだとか、そういう説明をしっかりとポイントポイントを押さえて書いているので見やすいかなと。た

だ、教育出版さんに関しては漢文とかそういうのが多くて、ちょっと内容が難しいような印象も受けました。

一方で、東京書籍さんと、あと光村図書さんは、図からこの部分が見出しだとか、リード文だとか、そういう説明がちょっと分かりづらいなど。説明もちょっと硬いなどという印象を得たのと、東京書籍と教育出版だと、例えば「新聞を読もう」というところで記事の見比べをしているのですけれども、ただ、光村図書さんは2つの記事を比べようというだけで、記事の内容が、教育出版だと本物の記事を書いているのですけれども、光村図書は記事がすごく小さく、文章だけページにだーっと書かれているような、そんな感じなのです。そういった意味で光村図書さんは見づらいかなど。ほかのページも見てみると、結構字が詰まっているので、見づらい印象を受けるのは光村図書さんかなというふうに感じます。

そんな感じですよ。

○ **委員長** ありがとうございます。

教育出版は2冊あるから、今お話があったように余裕がある編集をされているという感じはやはりしますね。そこはよさなのかなとも思いながら、見やすさというところも一つ大事な視点かなと思います。

それでは、よろしいですか。国語について、今それぞれ、ほかの教科書と比較したり、またはその教科書のよさというところで意見をいただきましたが、国語については以上で御意見ということにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

では、この勢いで、続いて書写のほう、よろしく願いいたします。書写は1ページ、1枚目、国語の裏面になります。書写も3つ、東京書籍、教育出版、光村ということで、今度は書写のほうです。またちょっとお時間を取りますので、御覧いただければと思います。では、書写のほう、同じ学年で見比べたりとかを含めて。

委員の皆さん、いかがでしょう。書写はちょっと教科書が薄いところもございますので、ほかの委員の方の御意見を聞きながらもう一回見て、何か気づいたことを言っていただければと思います。

では、委員の皆様、どうでしょうか。書写について何か御意見をいただければと思いますが、よろしく願いします。

では、お願いします。

○ **委員** 3年生以上の毛筆のページで比較すると、教育出版は見開きの右側に大きなお手本があるのです。前はよく印刷したりしていたかもしれないですが、今はそういうことをすると紙の無駄だということもあって、左にあるページもあるのか。ただ、5年生で比べると全部右だったのです。

○ **委員長** 4年生、左。

○ **委員** 右が多いかなと思うのです。ほかの2社は左が多くて、やはりお手本が右にあるほうが授業のとき使いやすいかなど感じました。

あと、ぱっと見がすごく色味がよくて、子供にとって見やすいかなというふうに思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

では、ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。

私は今、4年生を見ていたのですけれども、それぞれ「ノートの取り方」というのがあって、1社だけ理科で横書きのノートの取り方。教育出版は、ほかは縦書きのノートの書き方をやっているのですが、4年生で見ると、理科だけあえて横書きのノートの書き方を。4年生の教育出版、28、29ページ、あえてこれだけ横書きのノートの書き方をレットライで入れているというのは、ほかとは違う、あえてこれは横書きなのだ。理科は3年生からだけでも、4年生でこれを入れるのだなと。これも一つ特徴なのかなというふうに思いました。

あと、最初の初めのところのこういう置き方をしますよというところで、東京書籍だけ、用具の準備で、絵は小さいのですけれども、この辺にいろいろ説明があって、大筆は、新しい筆は軸を回しながら穂先からゆっくりほぐして使うとか、その辺がちょっと細かく出ている、これは興味を持ちやすいのかな。ほかはどうだろうと思うと、ほかは大きく置き方はこうですよ。あと、墨のすり方とかが載っているところもあるのですけれども、この辺も多分東京書籍のこだわりというか、興味を子供たちに持ってもらうための工夫なのかななんてことはちょっと感じました。

ということで、すみません、しゃべり過ぎました。ほか、いかがでしょうか、委員の皆様さん。

○ **委員** 3年生を見ているのですけれども、最初のページだけしかまだ見られていないのですが、教育出版さんだと「確かめよう」というページがあって、どのフレーズがいいかな、よいものに丸をつけようみたいな、そういうのもあったりして、筆の使い方を確認させるようなページがあっていいなと感じたのがあります。

あと、光村図書も筆の使い方みたいな部分はあるのですけれども、光村図書のいいなと思うのは、丸と三角となっていて、始筆の筆の置き方、こっちは丸だけれども、この置き方は三角だよみたいな、そういうのが書かれていて、それはそれで見やすいなど。ただ、「確かめよう」みたいながないので、分からなくなってしまうときに一々ここを見なければいけないから、それは面倒くさいのかなと感じたのがあります。

あと、東京書籍さんは擬音が多いなと思って、とん、すー、とん、すーみたいな、それは要るのかなというのはちょっと思いました。

○ **委員長** 確かにそうですね。とん、すー、ぴたとか。

○ **委員** そうです。とん、すー、ぴたという、そういうのが多いので、それはどうなのでしょう。3年生だからあってもいいのかなと思ったりしますけれども。

○ **委員** いや、上の学年も、6年生もある。

○ **委員長** 4年生にもありましたね。

- **委員** そうすると微妙かなというのは感じます。
- **委員長** 教員が指導の中で、はい、ここはぴたっととかと言うところをあえて、おっしゃったように東京書籍はそれを入れてというところなのかなと。ほかは入っていないですね、確かにね。
- **委員** ほかは入っていないですね。
- **委員長** そうですよ。とんとないですよ。教育出版がちょっと小さいのが、ぴたっと。
- **委員** 全部入っていますか。
- **委員** よく見ると入っています。
- **委員長** ちゅんとか。教育出版は、イラストのこの子が小さく吹き出しでとんとか。
- **委員** そうなのですね。まだ確認がちゃんとできていなくて、失礼しました。
- **委員長** でも、それが全部に入っているかというところでもないで、さっきおっしゃったことは東京書籍のもしかしたらこだわりのところなのかもしれないですね。ありがとうございます。
- どうぞ。
- **委員** 私は6年生のを見ていて、教科書がどういうふうに使われているのか分からないのですけれども、こういうところを見ると、ちょっと気になってしまったところなのですけれども、東京書籍の割と画数の多いところで、筆運びを青い文字で記しているのですけれども、これはすごく画数が多いので、でも、6年生だから大丈夫なのかな。かえってややこしいなと私は感じたのですね。
- 教育出版を見たら、まず右と左のページの字が一緒。湖という漢字のお手本と、湖という漢字の説明というふうに、見開きで両方が合っているので見やすかったのと、運筆の運びの矢印とかも見やすいなというのを思いました。
- でも、実際の教科書をどういうふうに使われるのかの現場が分からないので、見た感じだけの印象なのですけれども。
- **委員長** ありがとうございます。
- そうですね。筆運びのこれがちょっと違うのですね。書き方がね。
- **委員** そうですね。説明のところが、画数で1、2、3、4と番号を振っているところもあります。筆運びだから必要なのかな。
- **委員長** ここからこうつながってくるのよというのは、指導の中で、例えばここで跳ねて、そのまま筆が来るというのがさっきの矢印で。
- **委員** そうですね、文字と文字の。平仮名であればこの線でも分かりやすいのですけれども。
- **委員長** その辺の分かりやすさ。工夫なのだけれども、こっちのほうが分かりやすいかなというところですよ。
- **委員** そうですね。そう思いました。

○ **委員長** 分かりました。ありがとうございます。

では、ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、書写については以上で御意見をいただいたということにしたいと思います。

続きまして、国語、書写が終わりましたので、次、社会ということで、御用意のほう、お願いできますでしょうか。

では、またしばらくお時間を取ります。社会も3つの教科書、東京書籍、教育出版、日本文教出版ということでございますので、ちょっとお時間を取りますので、お願いいたします。

それでは、社会のほう、委員の皆様、いかがでしょうか。審議のほうに移ります。御意見をお願いいたします。何かございますでしょうか。

東書は、5、6年は2冊に分かれていますね。東書だけ。あとは1冊。教育出版と日本文教出版については、高学年も1冊ずつ、まとまっているというところ。

どうでしょうか。委員の皆さん、いかがですか。

どうぞ。

○ **委員** 社会科、3年生、4年生は副教材があるので、5、6年が特にこの教科書を中心に扱って行く観点なので、3、4年生はどっちかというところと文京区の副読本を使ってやる。それから、4年も東京のほうをやるので、5、6年中心に見ていくのが、ここが一番教科書で分かれるところではないかと思っています。

6年生の政治とかの導入とかがどういう感じかというところは、会社によって違いはあるかなというところですね。

○ **委員長** 最初の導入のところですか、政治の。

どうですか。委員の皆さん、今のところ、何かございますか。

○ **委員** 今の話。

○ **委員長** 今の話のところと言うと。

では、今のところではないところでも、委員の皆さんからもしあれば。でも、東京書籍は歴史、政治、国際と分かれていて、それぞれの最初のところ、今、他の委員もおっしゃっていましたが、その学習をどう進めていくかというところについて言うとやはり詳しく書かれているかなという感じはするのですよね。

どうぞ。

○ **委員** 東京書籍には、さっき国語のときに私、情報が詰まり過ぎていてちょっとと思ったのですが、社会科においては結構教科書で調べ学習とかを授業のときにやることが多いので、この情報量の多さがとてもむしろ役に立つのかなと思いました。

もちろんだの社もQRコードとかがついていて、そういうところで多分広げて調べられるようには工夫されていると思うのですが、教科書自体に非常に豊富な資料が載っているということでは、非常にいいなと思いました。

それから、6年生の選択の事柄ですね。子育て支援と災害復興という辺りで、子供にとってぴんときやすいというか、ほかの社と比べるとぴんときやすい、子供にとって分かりやすい題材かなと思いました。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか、委員の皆さん。

○ **委員** 私、年表が好きなので比べたら、ちょっとだけ特徴があったので、またイラストとかなのですけれども、日本文教出版というところの年表は、なぜか人物のイラストが多くて、ほとんどなのです。人物の服装とか、そういうところのイラストがメインで載っていて、2冊分かれているところ、東京書籍の年表は建物ばかりなのです、写真が。建物中心、遺跡とか。そして、教育出版の年表はミックスなのです。人物のイラストと建物や遺跡の写真がミックスでバランスよく配置されていて、私はこの年表が分かりやすくいいなと思ったのですけれども、でも、2冊に分かれているのもすごく、歴史は歴史の本、政治、国際は政治、国際の本となっているほうが、持っていくやすいというか、ずっといいなとは思いました。

○ **委員長** 年表一つ取ってもその会社の特徴というか、単純にこの2冊を比べると同じなのですね、大体。ただ、この使い方だと思います。

今、ふと見ていたら、どこもSDGsはあれなのですけれども、日本文教出版は結構、SDGsは大きく最初のところでも取り扱いながらというところは、もしかしたらこの教科書の特徴なのかなということも感じました。

では、ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **担当** 私のほうからお話をちょっとさせていただければと思います。

先ほど委員の皆様からお話があったように、まとめのほうを見ていると、教科調査の先生方も、やはり東京書籍のほうで学習過程が明確に分かれているという点を取り上げていたりとか、視覚的に理解が深まるように、資料や動画が非常に多用に使われているところが東京書籍の特徴なのかなというふうに思います。

また、今、SDGsの話がありましたけれども、文教出版のほうですけれども、単元の内容とSDGs等の現代的な問題を扱った記載があるというところも、こちらにもまとめのほうには書いてありますし、3社とも今、話題となっています二次元バーコードの活用については、様々な方面から活用しているというふうに報告を受けております。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

では、いかがでしょうか。今、事務局のほうからも話がありましたが、それ以外の視点で、この教科書、こういうところがとても見やすい、分かりやすい、文京区の子供たちにとってはというようなどころの視点で何か、それ以外でも御意見があれば、いかがでしょ

うか。

いいですか。

では、社会科のほう、これで審議について御意見をいただいたということにしたいと思います。ありがとうございます。

それでは、今度は社会科とともに一緒に活用していく地図帳になります。地図帳のほう、御用意ください。

では、地図帳につきましては、東京書籍、そして帝国書院ということで、2つ教科書が出されております。手に取って御覧いただきまして、また後で御意見をいただきたいと思っております。

それでは、よろしいですか。審議のほうに移りたいと思っております。御意見があれば、どうぞよろしくお願いいたします。いかがですか。

お願いします。

○ **委員** 帝国書院のほうなのですけれども、こちらは私も幼い頃からではないですけれども、なじみのある地図帳なのですけれども、相変わらずと言っていいか、優しい海の色でいいのですが、江戸時代の地図というか、簡略されたものが載っていたりするのとはとても面白いなと思ったところと、小学生の時点で世界地図がどこまで正確なものがいいのかは疑問ですけれども、この地図にランベルト正積方位図法というちゃんと地図の技法の名前まで入っていて、ここに小学生が気づくかどうかというのは分かりませんが、知識としてそういうものが視覚として入ってきて、頭の片隅にでも入るのであればとてもいいなというふうに感じました。

東京書籍も一緒なのですけれども、それぞれの地図に特産品だったり、その象徴するようなものがそれぞれイラストで入っているのはすごく分かりやすくいいなと。

東京書籍のほうは本当に色の感じがはっきりしていて、子供たちはこちらの色のほうが好むのかな、どうなのかなというのは、好みの問題なのかなという気はするのですけれども、ぱっと見たところでは、はっきりした色のほうが、小さな子というか低学年とかであれば興味を引くのかなというふうに感じました。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

ぱっと見て、3年生、6年生にも、色味で言うと帝国書院のほうがほわっとした感じの色の感じですかね。私、最近ちょっと目があれなので、私はこっちがほわっとして見やすいかなと。ただ、やはり子供たちはこういうはっきりしたほうがということも。色もあえてちょっと変えているというのは、それぞれのところの特色なのかなという気もいたします。

○ **委員** 関東地方を比べてみたのですが、帝国書院の63ページと大日本の41ページです。色の今の話で言えば、高低差がよりはっきりしているのは、帝国書院のほうの色の分け方、これはきっと見て明らかです。

○ **委員長** この茶色の部分ですね。

○ **委員** 文京区の取り上げは、ちなみに東京書籍は45ページ、首都東京、帝国書院は67ページに自分たちの文京区の取り上げですが、同じぐらいかなという気もしますが、おじいちゃんの絵だとか、こういうが入っているのがどうなのかなというのは多少あるかもしれませんが、こっちもパンダがいるので。

○ **委員長** さっき他の委員が、イラストが入ってと。そのイラストも2つ比べると多少違ってくるのかなと。

ほか、どうでしょう。いかがでしょうか。

○ **委員** QRコードを読んだのですね。帝国書院のQRコードをぱっと見ると、最初に地図クイズが出てくるのです。今、押したら、間違っって押してぶーっと鳴ってしまったのですけれども、すぐにクイズに行くのです。一番最初の項目が地図クイズで、今のが帝国書院ですよ。

でも、何となく取っつきがいいQRコードの先は、帝国書院のほうが、こっちもあるのですけれども、都道府県幾つ言えるかな、ビンゴ、都道府県かるた、似た感じですね。すみません、両方ともありました。

○ **委員長** 飛ぶ先は同じようなあれでしょうか。

○ **委員** 同じ感じでした。

○ **委員長** 興味が持てるようなクイズからとか。

○ **委員** やはりクイズは両方ありました。

○ **委員** ただ、クイズにすぐに取りかかれるのは帝国書院だなという印象ですね。

○ **委員** そうですね。

○ **委員長** 東京書籍は、そこに行くためには何か最初にあれなのですかね。

○ **委員** ちょっとホームページっぽい画面に行って、そこでクイズというのがあるから、それを選択するとクイズに移るといった感じなのですから、帝国書院はすぐにクイズの画面に移るみたいな。

○ **委員** ちょっと古い感じ。サイトの作りが東京書籍のほうがちょっと昔風で、帝国書院のほうがQRコードで飛ぶ先は分かりやすい、今っぽい画面になっています。

○ **委員長** 両方とも地図の中にマップでジャンプとか、帝国書院は地図マスターへの道とか、それぞれ小コーナーがあって、興味を引こうと。

私は、この地図を見たときに、帝国書院のほう、これは帝国書院の特徴なのかなと。広く見渡す地図というのがあって、同じように見比べていくと、あえて広く見渡す地図という、大きなところから、その後もっと少し細くなるのですけれども、すごくそれが、これは帝国書院が工夫しているところなのだなと。最初から同じようにめくっていくと、最初からもう日本列島があって、九州地方云々というところがあるのですけれども、帝国書院のほうは、広く見渡すところから、少しずつというような、この辺も見やすさをちょっと工夫しているのかなというところでもありますね。

ほか、いかがでしょうか、委員の皆様。

○ **委員** 今のところもそうですけれども、帝国書院は、そのページで子供に何をしっかりつかませたいかという、そのページの意図が明確だなという気がするのです。今の広く見渡す地図というのも、ざっくりと北海道なら北海道、例えば29ページだったら北海道をざっくりとまず見ようねというのが分かるページの作りになっていて、先ほどの色合いも、土地の高低差をしっかりと分からせるというところが、先ほど他の委員が御指摘された、そういうのが分かる。そのページページで分かりやすいかなと思います。

東京書籍のほうは、先ほど言ったとおり、例えば土地の高低、ここは山地なのだなみたいなのが、茶色い色合いなのがより分かりやすいのが帝国書院のほうかなと言ったのは、逆に言うと、東京書籍さんも色合いはとてもきれいなものだけれども、そういうところの意図がページページにより分かりやすく示されているのは帝国書院さんのほうなのかなという気はします。

○ **委員** この地図、すごいですね。山脈が物すごく見渡して分かりやすい。

○ **委員長** それはどこのあれですか。

○ **委員** 帝国書院の55ページなのですけれども、ああこういうふうになっているのだと。ちょっとデフォルメされているとは思いますが、見渡して分かりやすいです。

○ **委員長** 江戸時代の結びつきのところですね。

○ **委員** そうですね。項目としては別のことなのかもしれないのですが、立地からこういう人の動きになるということですよ。

○ **委員長** この辺も多分、帝国書院のほうの工夫の一つの特色なのかなと思います。

では、いかがでしょうか。地図帳につきましては大きく2つの出版社ということで、それぞれの特徴が今、委員のほうから出されたかなと思います。

では、地図帳につきましては以上で御意見をいただいたということによろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、続きまして、算数です。算数をお願いいたします。算数が一番高い山を作っておりました。では、またしばらく時間を取りますので、委員の皆さん、教科書のほうを御確認ください。

では、委員の皆さん、どうでしょうか。いかがでしょうか。審議のほうに移りたいと思いますので、ぜひ御意見のほう、今回、算数は教科書の出版社の数も多いので、それぞれ順番でもいいですし、この社の教科書はこういうところが分かりやすくてとか、ぜひ御意見のほうをお願いいたします。いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** 算数、小学校5年生のほうを見ているのですが、補充問題とか復習問題というのが結構どの教科書にも最後あるのですが、とにかく1つだけ、日本文教出版さんが、チェック、チャレンジ、ジャンプというふうに3種類に分かれているのですね。ほか

のところは多くて基本とジャンプとか、あるいは補充問題だけとかになっているのですけれども、日本文教出版さんは3つに分かれていて、算数が好きな子とか得意な子なんかはジャンプ問題までしっかりやれそうだし、レベル分けに対応できていていいのではないかなというのを感じます。

あと、私は数学科なので、その目で見ってしまったのですけれども、学校図書さんが円周率の歴史とか、そういう算数に興味を持たせるような小話、コラムみたいなものを載せているので、その点がすごい面白いなという感じ。

○ **委員長** 学校図書ですか。

○ **委員** そうですね。学校図書さんの5年生になります。円周率の歴史というのをわざわざ載せていたりして、楽しいなというふうに感じたのがあります。

あと、SDGsについて結構しっかり書いていのが教育出版さんですね。教育出版さんが最後のページに、「考えようSDGs」というのを載せていて、社会問題に絡めて算数をやっているというのが、なかなかない発想で面白いなというのを感じました。

あとは、日常のものに置き換えて話をしている、展開しているのが、新しい算数、東京書籍さんとか。学校図書さんとか東京書籍さんとかは、例えばペットボトルを例にして式が繰り広げられていたりとか、そういうのが結構多くあるので、日常に置き換えて算数を知れるというのはいいのかなと思ったところです。

○ **委員長** ありがとうございます。

今、お話を伺っていて、どこか1つだけ教科書が大きさが違うのがありましたね。学校図書ですか。ほかはみんな。形が横。その分、ぱっと見ると見やすさもその分あるかなという気はいたしますね。ありがとうございます。

ただ、まとめのところでも、2段階で、さっきお話のあったチェックしてチャレンジしてジャンプしてというのは、確かに日本文教出版のところの特色なのかなと思いましたね。ほか、いかがでしょうか。

○ **委員** 1年生の導入、一番最初の授業に入るときに、おはじきとかブロックを使って数の操作をするのですが、そのしやすさで、今の大きさで言えば、東京書籍、大日本、啓林、日文はそれ用というか、分冊で、それ用の広めの薄めのこういうのを使って、ブロックだとかおはじきが置きやすく。

○ **委員長** 大きい。

○ **委員** 実際の内容については、もう一つ分冊で教科書を作ってという感じになっているので、教育出版みたいなものは、導入、載っているのですけれども、この分の厚さが結局置くときに置きにくいみたいところは工夫として。

○ **委員長** 確かにそうですね。実際に子供たち、おはじきを使ったりやっていますからね。そこまで配慮してというところかな。

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

○ **委員** 東京書籍さんの4年生以上に、冒頭に、いわゆる世界や日本で活躍している人のコラム、算数と自分がどんなふうにつながっているのかというのがあって、例えば4年の上だと卓球の伊藤美誠さんとかというのは、「私と算数」という冒頭のコラムがあって、これほかの出版社さんにはない工夫だなというふうに思いました。

算数はどうしても得意だなとか苦手だなというのが子供の中ではっきりしてしまうのだけれども、算数というのはこんなふうに、一見関係ないようなところにもつながっている、要は自分の将来に生かされる場所もたくさんあるのだよというようなことをこういうコラムで載せているのは工夫かなとちょっと思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

興味、関心を子供たちに、そのための一つの工夫ということですね。

私、見ていたら、東京書籍は単元に入るときに復習が必ず左のページに載っているのですよね。例えば、私が見ているのは3年生の上の余りのある割り算を考えようというところが83ページにあるのですが、見開きのその左側には、どんな計算の場面かな、復習と書いてあって、この復習を基に前の既習学習を思い出しながら、この単元ねという、東京書籍はそんなふうになっていて、ほかは新しい単元につながっていくような、例えばイラストでうまく分けられるの、じゃあちょうど分けられない割り算について勉強していこうねでこっちのページみたいな、東京書籍だけそこにつながるような復習が左に入っているというのも、それは東京書籍の工夫なのかなというふうにはちょっと感じて、今、見たところ、ここだけそうなのだなと。だから、それは一つの特徴なのかなというふうには思います。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** それぞれ同じ学年の同じ単元のQRコードをつなげてみたのですが、東京書籍はすごく工夫した動画、ムービーという感じのものが入っていて、これは単元の導入として非常に目を引くかなと思いました。

あとはほかも割と工夫はしていて、啓林館なんかは同じ領域の既習事項の復習問題だったり。

○ **委員長** それがQRコードで。

○ **委員** はい。大日本図書は、全学年の全領域に飛ぶ感じですね。というような感じでそれぞれ工夫があったのですが、QRコードに何を求めるかにもよると思うのですが、東京書籍の動画は非常に楽しいかなと。ただ、全部のQRコードはもちろん見えないので、全部がそうなのかはちょっと分かりませんが、そういう特徴が見てとれました。

ただ、同じ領域の既習事項の復習から入りたいなという先生もいるかなと。そう考えると、啓林館のも悪くはないかなと思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

○ **委員** 先ほど1年生を言った。6年生の分数の割り算をひっくり返して掛ける分数の割り算があります。あれの導入のところの数字が、5分の2割る4分の3の数字でやっているところが3社で、5分の3割る3分の1、要するに単位分数、3分の1で割っているというところが2社で、本区の子供たちからすると、より数字が難しいというか、3分の1で割るというよりは、もう少し上げた課題である教科書のほうが、やや子供たちには歯応えがあるのではないかなと。

○ **委員長** 歯応えがあるのは、今のお話だと、3社はどこなのだろう。

○ **委員** 教出、学図、大日本、東書、3社ではないですね。

○ **委員長** 4社ですね。そこは、それに向かい合う子供たちの状況によって、ちょっと工夫はしているところなのかな。文京区としては、今、他の委員がおっしゃったような視点でいくと、そのほうが子供たちが意欲を持って取り組めるかもしれないということにもなるかもしれないし、それも一つの特色なのかなと思いました。

ほか、いかがでしょうか。なかなか教科書が多いので、見比べてというところも。

お願いします。

○ **委員** 啓林館さんが唯一、最小公倍数の書き方が、3の倍数にも4の倍数にもなっている数は3と4の公倍数と言いますという言い方をされていて、ほかのところは、例えば3と4の共通の倍数という言い方をしているのですね。これのように、啓林館さんが結構平易な言葉、よく言えば平易な言葉を使っていて、読みやすいのかなというのは感じます。

ただ、最小公倍数のところと言うと、言い方が共通というのはもう5年生の時点では知っている単語ではあるので、なぜあえてそれを使わなかったのかなというのが疑問としてはあるので、その疑問があって、ちょっと平易過ぎるのかな、ちょっと易し過ぎる言葉を使っているのかなという印象でもあります。

だから、言葉の使い方として、どういうレベルのものを用意するかという視点で言うと、本当に落とし込んだ言葉、平易な言葉を使ったものを子供たちにやらせるのであれば適切という感じですかね。

○ **委員長** 先ほど他の委員が分数のところでお話ししたことと、今の言葉をどういうふうに子供たちに伝えるか、目の前の子供たちにとってと考えると、平易な言葉にした意図というのが何かあるのかもしれないけれども。

分かりました。ありがとうございます。

では、委員の皆さん、いかがでしょうか。ほか、御意見よろしいですか。

事務局のほう、よろしいですか。何か補足で。

○ **事務局** 補足させていただきます。

先ほど話題に上がりましたQRコードのデジタルコンテンツについては、解説資料のほうに数字が上がっていたので情報提供させていただきます。

東京書籍が約1,450種類、大日本図書が1,445種類、学校図書が610種類、教育出版が590

種類、啓林館が1,610種類、約です。日本文教出版が840種類と、少し差が出てきているかなというところで、ただし、先ほど大日本図書、委員からお話があったように、全体の扱いであったりとか、会社によってはそのページごとにリンクをつけているという工夫も出始めているという状況がございます。

以上です。

○ **委員長** 数も大分あれなのですね。

分かりました。ありがとうございました。

よろしいですか。

算数については、これで御意見は以上いただいたということで、ありがとうございました。

では、続きまして、理科のほうに移りたいと思います。理科は5つの出版社からということになっております。理科、3年生以上ということで、よろしく願いいたします。ちよっとお時間を取ります。

それでは、いかがでしょうか。理科のほう、審議に移りたいと思いますが、何か御意見があれば、ぜひ。大分委員の皆さんの顔も見えやすくなってまいりましたので、いかがでしょうか、何か気づいたところとか。

私から、ぱっと見たときに教科書の大きさがまず違うではないですか。東書と大日本図書だけ大きいですかね。例えば3年生、理科が始まって、昆虫のところはすごく子供たちは興味、関心を持っていて、昆虫のところを見たのですけれども、写真が見やすいのは、量も多いのは、東京書籍がとても写真も多くて、昆虫のところだけを見ても、とても多くて見やすく、写真の量が豊富でと思っているのですが、大日本図書も、昆虫のところ結構多いのですね、アゲハチョウのところ。大きい分、この2つの会社については、写真も多くて、子供にとってみれば初めての理科ということで、興味、関心を持ちやすいのかなというふうに感じたのと、あと、理科ってこんなお勉強ですよという学び方が一番最初のところにこんなふうにあると思うのですけれども、私が見ていて見やすいのは、東書が問題、予想、計画、観察・実験、これがとても見やすく、その横にちょっと説明。一番この辺の学習の学び方、進め方みたいなところ、ここも細かく書いてあるのですけれども、見え方としては大きくて、こっちのが見やすいかなということもぱっと見てちょっと感じたところで、そこは東書のよさであり、先ほどの写真とかが豊富でちょっと大きくて見やすいというのは大日本図書も教科書の大きさのよさが生かされているのかなというふうには思いました。

ということで、ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。

○ **委員** 3年生が、理科を初めてやるので、観察・実験のところでは比べてみたところ、太陽と影の観測というのがあって、教育出版はこんな感じ、ペットボトルを使ってこういう観察ですね。この形が、ここと、あと学校図書は、こういう自分が立ってやる。対して、ほかの大日本なんかは工作用紙を使って、ペンを立てて、より計測的な方向で、これをや

っているのが、ここと、あと東京書籍、それから、工作用紙は使っていませんが、やはり同じような形でやっているのが啓林ということで、より観測が具体的になっているという感じは、こちらのほうがしたというところですよ。

○ **委員長** 観測がより具体的になっているのが。

○ **委員** 今の工作用紙を使っているとか、板を使ってやるほうが、自分の体だとかペットボトルで何となくやるよりも、より具体的な観測になる。

○ **委員長** 具体的に計測をしていく。文京区の子供たちの状況を考えていくと、より具体的なもので、計測で数値的に積み重ねてみたいなのが興味を持てるということもあるのかもしれないですね。

ほか、いかがでしょうか。

では、お願いします。

○ **委員** 教育出版さんの人体をぱっと開いたときに、いきなりこのページだったのすよ。このページで、これはめっちゃくちゃで、大きいがゆえに、4ページにわたってあるのですが、人体に興味がある人なんかだと、結構これは面白いなと感じるなど。ただ、一方で、こういうのが気持ち悪いと思う子はもしかしたらいるかもしれないなどというのはあるのですが、それでほかのところのものを見たら、例えばこんな感じで、一般的な感じで書かれているので、すごい特徴がはっきりとあって、例えば同じ人体ですけれども、こういうふうにとちょっとリアリティーを持たせていたりとか、ほかのページも、ほかのところと比べると教育出版さんのほうは写真を多用していて、分かりやすくなっているんで、6年生しか見ていないのですが、図の大きさというか、図で非常に分かりやすく書かれているというのは教育出版さんの一つの特徴かなというのを感じました。

そんな感じですよ。

○ **委員長** そこは特色が出ているんですね、今のところね。

どうぞ。

○ **委員** 私は今、うちの子がメダカをやっているんで、メダカを見ていたのですが、メダカのところと、4年生、5年生のぱっと開いた扉のページのところを見ていたのですが、一番私が見ていて魅力的だったのは東京書籍です。東京書籍さんの一番扉を開けたところのページが、「理科で未来を予想しよう」という宇宙の写真が出てくるのです。あと航空写真が出てきて、QRコードはデータが重いのか開けなかったのですが、それとあとメダカを見たら、写真がすごくきれいでした。大きいし、卵がきらきらしていて、すごくきれいな写真が入っていて、中の説明は大体皆どこの会社も一緒なのですが、ぱっと引きつけられたのは東京書籍です。

あと、ほかにも写真はもちろん入っていて、説明もあるのですが、メダカに関して言うときれいなのはそこで、あと、冒頭のところで各社工夫していて、地下の台風が起きたときの逃げ道になる水の要塞みたいなところですよ。その写真があったのが教育出版、ちょっとSDGsも入っていて、ちょっと興味を引く内容だったり、あと、これは啓林館

ですけれども、空中に浮かぶ電球とか、ちょっと疑問を持たせるようなところであったり、あとは、大日本出版は冒頭が漫画です。5年生。これはサバイバルみたいな、そんな感じで面白いなって思ったのがちょっと目を引いたところです。

○ **委員** 東京書籍と大日本図書が縦長っぽい形なのですが、特に東京書籍は縦長をうまく利用しているページの展開をしているなど。胎児の成長のところを見たのですけれども、こっちは大きくアップ、こっちは縦に展開している。あと、どのページにも、さっき他の委員がおっしゃっていたのですけれども、問題、まとめとか、こういうのがすごく分かりやすく学び方を、教室や理科室で役に立つ学び方の追い方というか、これはもしかしたら使いやすいかなど。

理科は縦長の教科書が魅力的だなと思いました。やはり大日本図書も縦長をうまく使っているので、ページに面積があったほうが、余裕があつていい資料が載せられるのだなというふうに全体的に感じました。

○ **委員長** ありがとうございます。

写真とか、そういうのをうまく活用してどこもやっているのですが、その見やすさは多少会社によって違うところがあるのかもしれないね。

それでは、いかがでしょうか。

事務局のほうから何かございますか。

○ **事務局** 構成について、先ほどの扉、最初にありました学び方につきましては、資料のまとめのほうの2番にあります。調査研究委員会のほうでは、大日本図書の展開の内容、問題、実験・観察、まとめと、大きなまとめがさらに細かく、大日本図書は7つの段階で示されているというところが特徴的だということが挙げられております。

○ **委員長** ありがとうございます。

大日本図書、3年生も確かに7つですね。では、全部7つなのですね、学び方のところ。分かりました。ありがとうございます。

では、理科のほう、以上で審議、御意見をいただいたということによろしいですか。

ありがとうございました。

では、これで理科のほうについては御意見をいただいたということにしたいと思います。

続いて、生活科まで行ってしまいますが、よろしいですか。残り、音楽と生活科が残っているので、生活科を今日最後ということで、事務局、よろしいですか。

では、委員の皆様、生活科は東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書、あと啓林館、6つの会社からございますので、よろしくお願ひします。

上下で分かれていますけれども、1年、2年という形ですね。

では、委員の皆様、いかがでしょうか。

1、2年生の教科書ですので、見ているだけで文字の大きさだったりとか、その辺はどこも工夫をされているのかなと思うのですけれども、委員の皆さん、いかがでしょうか。何か御意見があれば。

単純に、例えば東京書籍と啓林館というのは、最初、子供がめくりやすいようにですかね。ぱっと開くとスタート生活みたいな、ちょっとめくりやすくなっているのです。これは1年生が同じ大きさではなくて、こうあることでめくりやすくしているのかなとか、啓林館と東京書籍はこれが多分意図的な配慮なのかなとは思ったのですけれども、そういう配慮がされているなというのは今、見ながら思ったところです。

ほか、いかがでしょうか。何かほかにもいろいろ。

どうぞ。

○ **委員** 理科のときに、大きいことはいいことだみたいなことをやってしまったのですが、啓林館、面積は小さいのですが、物すごく資料が豊富で、特にライブというページが、図鑑のようなページがすごくいいなと思います。ライブというページがところどころにあって、すごくビビッドな色合いで、豊富に図鑑的なページになっている。その辺りが非常にいいなと思いました。面積は小さいですけれども。

○ **委員長** 面積は小さいけれども、文字が大きくて、うまく写真をとるところの工夫はあるのかもしれないですね。分かりました。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** 全部見ていないのですけれども、今、東京書籍、啓林館、光村もちらっと見たところなのですけれども、内容というか、1年生に入ったばかりというところで、生活に慣れるとか、そういうことも含めてということかもしれないのですけれども、イラストにしても写真にしてもなののですけれども、それこそいろいろな国籍の子であったり、車椅子の子であったり、そういう多様性の面での配慮がされている教科書というか、そういうふうになっている。あえて意識してそういうものを使っているのかなという気は今、しています。

○ **委員長** ありがとうございます。

確かに意図的に多分委員がおっしゃったような多様性みたいなところで、どういう写真を使っていきますかというところの工夫は、見やすさとともに子供たちへのメッセージとしてというのはあるのかもしれないですね。

光村の上巻、車椅子のお子さんもいらっしゃったりとか、さっき委員がおっしゃったようなところ、いろいろなお子さんが、仲間がいるよというところのメッセージなのかなというふうな。

ほか、いかがでしょうか、委員の皆さん。

お願いします。

○ **委員** 大日本図書と啓林館の2つかなと思うのですけれども、書かせるところが結構あって、自分たちで想像させたりとか、そういう想像力とか、発想力とか、そういったものを育むことができそうだなと感じたのがこの大日本図書と啓林館ですかね。自分の発見だとか自分の考えを書いていくようなところが多かったのだというのを感じました。

○ **委員長** そこに、子供が気づいたことだったり、考えたことだったりというのをまとめる、教科書の中にね。

○ **委員** 大日本図書なんかでは、野菜も元気だよという、この部分を埋めていくような感じなのかなと思うのですけれども、これは結構特徴的だったので面白いなと思って。

○ **委員長** そうですね。ほかのところでは、ここまでのスペースで、だから、やはり子供に考えさせて、自由に書けるようなスペースを取っているというところ。

分かりました。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** 生活って、外に出ていくイメージとか、校庭に出ていくとか、そういうイメージが強いので、教科書に求められるものが何なのだろうと思ってしまったのですけれども、ちょっと特徴があったのが、これは皆さん御存じですか、このキャラクター。うちに物すごい小さい頃読んでいた、「コンガラガっち」というキャラクターなのですけれども、地図の道をたどって行って、いろいろなものを発見していったりとかするという、そのキャラクターを使って、むむむとか、何かすごく教科書、読み物として目を引くなど。やはりキャラクターの力を使ったりとかしているのが、教育出版が、ああ、なるほどなと思いました。

○ **委員長** この黒いあれですか。

○ **委員** 黒い生き物が、架空の生き物なのですけれども、「コンガラガっち」と言うのですけれども、「コンガラガっち」の説明は特にはないのですけれども、すごいいっぱい出てきます。彼がいっぱい語ってというのがちょっと特徴があって、私の家にいっぱいある絵本だったので親しみがあったのですけれども、あと、光村図書だけが、広がる生活事典とあって、別冊に何か取れるみたいになっているのですけれども、きゅっと引き抜くと、これが別冊になって、事典になって、イカのおすしとか、乗り物の乗り方とか、育て方の種の種類とか、そういうのが載っていて、これはまとめて見られるので面白いなというふうに思いました。

○ **委員長** これはこうなっているのですね。別冊でね。

ありがとうございました。

では、事務局のほうから何かございますか。

○ **事務局** ございません。

○ **委員長** いいですか。

では、ほかに委員の皆様、いかがでしょうか。

よろしいですか。

では、生活科については、以上で御意見をいただいたということにしたいと思います。

では、もうお時間が8時を過ぎてしまいました。教科用図書の審議は、本日はここまでということにいたします。今のを答申文としてまとめる、そのまとめ方についてどのよう

にするかを諮りたいと思いますが、副委員長のほうからよろしく申し上げます。

○ **副委員長** 本日、教科用図書調査研究委員会からの報告のまとめを踏まえ、皆様からいただいた御意見を事務局で答申文案としてまとめて、次回、6月27日に内容を御確認いただく形を取らせていただければと考えておりますけれども、よろしいでしょうか。そのことについて、次回の審議会で審議できればと考えているところでございます。

○ **委員長** では、今、副委員長からの申出のとおり、審議過程を踏まえて、事務局に答申文案のまとめを作成していただき、それを確認する形ということではよろしいでしょうか。では、事務局のほうにお願いいたします。

○ **担当** 答申文案の項目数につきましては、各教科3項目ないし4項目で全て統一をさせていただきます。事務局のほうで整えさせていただきます。御理解いただければと思います。よろしいでしょうか。お諮りください。

○ **委員長** では、特段影響がないといった御意見については、このところでは触れないうで、全ての教科書会社同じ項目数で答申文を作っていただくということでございますが、それでよろしいですか。大体3項目か4項目という形で。

では、そのようにしていただきたいと思えます。

26日、答申文案が示されますので、それはまた次回の審議会の中で審議できればというふうに思っております。

では、よろしいでしょうか。

今回は6月27日火曜日の18時から、残っております音楽、家庭科、保健、外国語、道徳の審議を行います。

○ **担当** あと図工ですね。

○ **委員長** 音楽、図工、家庭科、保健、外国語、道徳の審議ですね。

委員の皆さんは、後日、事務局から配付される予定の審議会の答申、教科書の見本をあらかじめ御覧いただけると審議の進みも円滑になるかと思えますので、それぞれ御多用の中とは存じますが、よろしくお願いいたします。

では、事務局のほうから申し上げます。

○ **担当** ありがとうございます。

第1回目の議事録を机上配付させていただいております。もし何かお気づきの点等ございましたら、次回までに御連絡をいただければと思いますので、よろしく申し上げます。27日当日でも構いませんので、よろしく申し上げます。

以上です。

○ **委員長** では、議事録のほう、次回までに御意見があれば、次回のときでも、または気がついたことがあれば事務局のほうに電話をしていただいても構わないかと思えますので、よろしく申し上げます。

では、ほかよろしいですか。

それでは、以上で本日の審議を終了したいと思います。長時間にわたりましてありがと

うございました。